



2020年12月10日183号

三浦半島地区委員会公郷2-1-9

046-851-1123

大村・携帯 090-1107-0498

ブログ [大村洋子](#) →検索



今年も早くも残り20日ほどとなりました。

コロナに翻弄された1年でしたが、みなさま、暮らしぶりはいかがですか。12月定例議会の報告をします。

一般質問は6項目

今回ほど市民の支えを実感して
質問を作ったことはありません

感謝の気持ちでいっぱいです。

- ①旧軍港市転換法に対する認識と横須賀の将来像
- ②上地市政3年半の行政計画における決定過程の透明性並びに利害関係者への説明及び合意形成
- ③福祉援護センターかがみ田苑の指定管理について
- ④「建築物の解体工事に伴う紛争の未然防止に関する条例」の実効性について
- ⑤ジェンダー平等の観点からの「選択的夫婦別姓」の認識
- ⑥オンライン学習・GIGAスクール構想における児童生徒の身体的ケアについて

旧軍港市転換法とは

戦争でボロボロになった横須賀。終戦後働くところもなくなり多くの人々が離れていきました。(人口は44万人→20万人へ)そこで、旧海軍の建物や土地をまちづくりのために役立てようと住民投票によって軍転法ができました。名前の通り、平和産業港湾都市への転換が謳われた法律であり、全国でも横須賀、呉、舞鶴、佐世保にだけの特例法です。

大村「横須賀は軍都か？基地のまちか？」

市長「在日米軍と自衛隊が地域の平和と安定のために重要な役割を担っていると承知している」

大村「基本構想の中に『可能な限りの米軍基地の返還、自衛隊施設の集約・統合』を謳うのか」

市長「次期の基本構想にも謳う」

大村「2期目への挑戦をお考えか？」

市長「まったく、白紙」

横須賀の市長は本当に大変だと思います。他人事のように言うのも変ですが、79年前の横須賀市の市是は「世界最大の軍港都市の実現」でした。それが、戦後「平和産業港湾都市」となり今は形骸化し、日米政府に翻弄されて戦争の足場にされています。だからこそ、言行不一致はもう止めてはつきりNO!と言える市長が必要だと私は思います。

【この間の横須賀市の事業 はじめに関係者への丁寧な報告・説明が何よりも必要でした】

2018年8月21日記者発表	うわまち病院の移転建替え	地元商店街に事前説明なし
2019年2月施政方針	職員厚生会館のリノベーション	労働組合との調整は後回し
2019年9月定例議会で提案	「平和モニュメント」解体撤去	作者ご遺族の承諾なし
2019年9月	小動物の火葬施設の廃止	動物愛護協会に打診なし
2020年8月	新港ふ頭のフェリー就航	港運協会と合意なし 地域住民に報告説明なし

大村「市長は実行の人。決めたことをどんどん進める」
 「でも、いつも突然であり、事前説明なしだ」
 市長「最終的に私が判断。総論賛成。各論反対は常にあり得る」

大村「ボタンの掛け違いって、いつも事業を進める側が使う言葉。」
 「自ら市民の前に行き、丁寧に説明することが必要だ」
 市長「難しいんですよ、これが。事前に説明していたら
 長引いて答えが出せなくなるということもある。私が出張ることは今までにない」

みなさんはどう思われますか？
 私は、横須賀市の最高責任者として、必要な時は自ら、利害関係者の前に行き、真摯な態度でしっかり説明、お願いをすることが必要だと思います。

市長はいつも「スピード感」の重視を言います。「市民にとって何が今必要か、1日も早く実現することが大事」と言います。しかし、それで、合意形成が上手くいかないのであれば、結局、禍根が残り、気持ちの良いスタートは切れないのではないのでしょうか。

独断専行型の市政運営では、職員も焦り、意思の疎通もできぬまま安定的な良い仕事が出来ないのではないのでしょうか。限られた時間・財源・人材の中で成果を求められる。思わぬアクシデントやケガ、病気が心配です。

弁護士による無料法律相談
 お一人 30分
12/22 火 午後5時～7時
 事前に予約してください。
 090-1107-0498
 場所は浦賀の事務所です。

編集後記
 いつも、じっくりと掘り下げて市長に質問をしようと思うのですが、そうはいきません。今回も6項目も質問したので、結果、どれもさらりと表面を撫でただけの質問に終わってしまいました。でも、冒頭書いた通り、今回は特に市民のみなさんからいただいたご意見や要望が基で質問になったものが5項目。来年の代表質問につながる内容ばかりです。次回も一般質問の後半部分を報告します。